

ホットスポットポリシングは、犯罪の減少と関連している



犯罪のホットスポットを取り締まることで、必然的に犯罪転移効果が生じるわけではない。また、ホットスポットの取り締まりは、防犯効果を周辺地域に拡散させる可能性が高い。

このレビューの目的は何か？

このキャンベル系統的レビューは、従来の警察の犯罪取り締まり戦略と比較して、犯罪の「ホットスポット」に警察の取り締まりを集中させることについて予防効果を評価するものである。このレビューでは、78のホットスポットポリシングのうち27の無作為化比較試験と38の疑似実験的評価を含む65の研究のエビデンスを要約している。

ホットスポットポリシングは、犯罪が最も集中している場所での犯罪の減少に、わずかではあるが有意義に関連している。犯罪が多発する場所に警察の取り締まりを集中させることは、ホットスポットに隣接する地域への犯罪の転移よりも、防犯効果の広がりをもたらす可能性が高い。

このレビューの内容はなにか？

犯罪は小さな場所、すなわち「ホットスポット」に集中しており、犯罪発生件数の半分以上を占めている。ホットスポットポリシングは、このような犯罪多発地域に警察の資源と注意を集中させるものである。このレビューの目的のために、ホットスポットに関するプログラムは、大規模なエリアよりも、犯罪が多発する地域を対象とした警察主導の防犯対策で構成されていることが必要であった。

このレビューでは、ホットスポットポリシング介入が犯罪に及ぼす効果について、無作為化比較試験と疑似実験評価の両方を検討している。各調査のグループは、通常のレベルの伝統的な警察の取り締まり戦術を入手した。

どのような研究が含まれているのか？

ホットスポットポリシング介入に関する78件のテストをふまえた全部で65件の研究が特定された。しかし、標準化された効果量は、含まれていた3件について欠陥の報告があったため、73件の主な効果があったテストについてのみに算出された。

すべての研究が1989年から2017年までに発表されたものである。米国で51件、英国で4件、スウェーデンで4件、その他の国で6件の研究が行われた。

このレビューの主たる結果は何か？

犯罪のホットスポットに防犯活動を集中させることで犯罪は減るのか？

そのとおり。ホットスポットポリシングは、この戦略が実施されている地域では、全体的な犯罪と秩序違反の減少について、統計的に有意であることが示されている。これらの犯罪の抑止効果は、薬物犯罪、秩序違反犯罪、財産犯罪、凶悪犯罪など、特定のカテゴリーの犯罪に見られた。



このレビューはどれくらい最新のものか？

レビュー執筆者は2017年2月までの研究を検索した。

キャンベル共同計画とは何か？

キャンベル共同計画とは、系統的レビューを公表する、国際的、任意的、非営利的な研究ネットワークである。本組織は、社会科学や行動科学の領域における取り組みのエビデンスを要約し、その質を評価している。本組織の目的は、人々のより良い選択とより良い政策決定を支援することである。

この要約について

この要約は、Anthony A. Braga, Brandon Turchan, Andrew V. Papachristos and David M. Hureauによる、キャンベル系統的レビュー‘Hot spots policing of small geographic areas effects on crime’にもとづいている。

このサマリーの作成のためのAmerican Institutes for Researchからの財政的支援に感謝の意を表する。

犯罪のホットスポットを取り締まることで、必然的に犯罪の転移効果を生むのか？

いいえ。全体的には、ホットスポットポリシングの方が、犯罪を周辺に逃がすというよりも、対象となる場所の周辺に拡散していく防犯効果を生み出している可能性が高いと考えられる。

このレビューの知見が意味するものは何か？

このレビューから得られた知見は、積極的な犯罪削減戦略としてのホットスポットポリシングを支持するものである。警察本部(police departments)は、犯罪抑止のためにより幅広いアプローチの一環として、犯罪多発地域に資源を集中的に投入すべきである。



AMERICAN INSTITUTES FOR RESEARCH®